

会議録

会議の名称	小中学校通学区域見直し等に関する谷戸町・泉町・住吉町・ひばりが丘地域協議会（第5回）
開催日時	平成22年12月13日（月曜日） 午前9時30分から午前10時20分まで
開催場所	西東京市立住吉小学校 2階ランチルーム
出席者	委員：屋宮茂穂、藤原久子、加瀬裕子、西潟克夫、神山繁樹、青木由美、蔵方由紀、河野美晴、池田めぐみ、上田悟司、八巻真実、眞鍋五十鈴、熊澤義夫、齋藤雅子、前野陽子、齋藤勝利、清水則之、門馬晶子、嶋田実穂、羽田八三九、西嶋剛昭、西岡一美、米田明未、住田佳子、大野雅生、田代裕子、百瀬英子、佐藤裕子、二谷保夫 事務局：櫻井勉（教育企画課長）、清水達美（教育企画課企画調整係長）、後藤幸男（教育企画課学務係長）、相澤潤子（教育企画課企画調整係主任）、山岡昇（教育企画課学務係主任）
議題	1 開会 2 会議録の確認 3 資料説明 4 意見・質問 5 次回の開催日程について 6 閉会
会議資料の名称	資料1 シミュレーション選択アンケート集計結果
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>議題1 開会</p> <p>議題2 会議録の確認 第4回の会議録は委員の承認が得られたものとし、（案）を外して正式な会議録とする。</p> <p>議題3 資料説明（事務局から） 資料1の説明</p> <p>議題4 意見・質問 ○会長： 当初の予定では今日の会議の中でシミュレーションを決定するという話であった。アンケートの（質問1）では、シミュレーション3が最も多くの支持を得た。シミュレーシ</p>	

ョン3を選択した場合の課題・問題もあわせて載せてあるので、意見などあれば出していただきたい。

意見が出ないようなので、シミュレーション3を選択するという方向で話を進めていく。

次に（質問2）（質問3）の内容を読んで、意見・質問はあるか。これで良いという意見でもいいので出していただきたい。

○委員：

シミュレーション3を選んだ理由を読んでいると、適正規模になる、安全である、わかりやすい通学区域である、現状にあっていいるなどという意見が出ている。何より支持を多く集めているので良いと思う。シミュレーション3で課題が見つければ、その都度解決しながら進めていってはどうか。

○委員：

小・中学校で通学区域が一致していることがいいと思い、シミュレーション3を選択したが、（質問3）の自由記入欄で「その考え方をを用いるなら、市内全小学校に適用すべき」という意見には少し考えさせられた。また、上の子どもが田無二中なので、学級数減少により専科の教員がまかなえなくなるという前回会議での意見を聞いて心配になっている。

○委員：

シミュレーション3にした場合、田無二中の生徒は減るのか。

○委員：

シミュレーション2だと谷戸小から田無二中という流れができるのでありがたいと思ったが、谷戸小の児童数がいっぱいになってしまう。そのためシミュレーション1か3を選択することになると思った。田無二中にとってはシミュレーション1の方がいいようだ。それは平成27年度までは現状維持の場合と、中原小学校の通学区域の飛び出した部分（谷戸二丁目のコスモひばりが丘と戸建部分）を変更した場合との生徒数に差が出ておらず、平成28年度から1クラスの差が出るということが理由である。

○会長：

いずれのシミュレーションを選択しても課題があるということである。今回は指定校変更特例措置を廃止しようというのが主な目的だ。シミュレーション3は小学校から中学校へ進学する際に、ある程度わかりやすい通学区域にしようという考え方である。多くの委員からわかりやすさがいいという意見があった。今後人口の増減によって児童・生徒数の推移は変わってくることも考えられる。

市内全体では、田無二中より規模の小さい中学校もあれば、大きい学校もある。教育の質は規模が小さいからといってハンデにならないように行われている。規模に対する教員の数は決まっていて、規模によって対策が取られている。

今までの会議の流れを考慮し、今回はシミュレーション3に決定するという方向で意見をいただきたいが、どうか。

意見が無いようなので、シミュレーション3に決定した場合に考えられる問題点など

は何かあるか。

○副会長：

今回は中学校選出の委員として出てきたが、学校施設適正規模・適正配置検討懇談会の委員から関わっている。前回会議で示された資料によれば、中学校では平成28年度に12クラスになる。実態としてはどうなのか。このシミュレーションはあくまで予測なのか。

○事務局：

確かに平成28年度に12クラスになるシミュレーションである。これは現在の環境が全て変わらない場合の推計である。この間に万一環境の変化があるときには変わってくることもあり得る。しかし、現在考えられる状況は全て盛り込んで出している数字である。合併以後、工場跡地に集合住宅ができ、人口が増えている。これは合併前には想像できなかったことである。合併以前は人口減により、学校の統合も視野に入れて考えていた。中原小では単学級になってしまうところだったが、逆に児童数が急増するという事態になった。

学校は増築や他の土地に建てることは困難な状況にある。今ある施設でお金を使わず有効活用し、なおかつ適正規模という考え方をすすめていき、変化があれば修正したい。

今回はそのような条件から示したシミュレーションの中で、この地域全体を見て検討していただきたい。

○副会長：

自分もシミュレーション3を選択したが、中学校の通学区域に関して気になった。学校施設適正規模・適正配置検討懇談会の時も、委員から教科担任が全て揃っているのが指導する上で適切であり、確保できなければ対処方法を考えてほしいと意見が出ていたので、そのことも考慮の上検討していただきたい。

○委員：

クラス数に関わらず、先生を確保する方法はあるのか。

○委員：

時数の多い教科（国語など）の教員が全くいないということはないが、その他の教科は講師で対応することもあるのが一般的である。また、時数の多い教科であっても、3人必要なところ教員を2人とし、あと1人を講師にすることもある。それは都では島しょ、へき地へ講師が行くことができないので、教員を確保する必要があるためであると聞いている。

○会長：

12学級までは基本的に全教科の教員を置かなければならない。各学校に教科の先生が1人も入らないということにはならないはずである。

シミュレーション3の内容について、他に心配や検討すべきことはあるか。

なければ、今回の指定校変更特例措置廃止にむけた協議会の中では、シミュレーショ

ン3を選択させていただいて、検討経過を事務局で報告書としてまとめてもらい、次回の会議に持ってきてもらいたい。このことについて、事務局からなにかあるか。

○事務局：

協議会の報告書をまとめるにあたり、次のことを共通認識として持っていただきたい。

(1) 合併時の指定校変更特例措置を解消し、実態に合った形で設定する。この制度によりどれだけの児童生徒が入学するのか、把握できないということがあった。今後は学校選択制度を活用することにより、特例措置を解消することができる。

(2) 通学路の安全を確保する。

(3) 特定の学校に児童生徒が偏らないように配慮する。

(4) 極力校舎の増改築が必要の無いようにする。

今までの検討経過の集約をして、報告書案をまとめ、次回会議開催の2月ごろ示したい。

議題5 次回の開催日程

○会長：

次回は平成23年2月9日（水曜日）午前9時30分から田無第二中学校で開催する。

議題6 閉会